

平成30年度 学校評価（中間評価）

本年度の 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善 ○保護者や関係機関との連携に基づく教育の充実 ○地域のセンター的機能の拡充 		
項目 担当	重点目標	具体的方策	中間評価
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の分かりやすい駐車方法と駐車場の整備 ・平成31年度の行事における保護者の駐車の方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに駐車方法のプリントを職員に配付し周知する。 ・定期的に全体又は個別に駐車の方法について説明する。 ・駐車場の白線引きと通用門付近の看板の整備をする。 ・行事ごとに駐車方法の案を出して検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めの職員会議で、全職員に向けてプリントを見ながら説明を行った。 ・駐車の方法が間違っていたら、指摘し協力をお願いした。 ・通用門付近の看板、正門の駐車方法を表示する看板を現在製作中。 ・来年度の行事における保護者の駐車方法について、校務部内で検討し、管理職に確認してもらい、再度検討中。
教務	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の検討 ・学習指導内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成32年度からの実施できるよう、小学部・中学部・高等部のつながりある教育課程を目指して検討を進める。高等部での実践を参考に、各部の通常の学級での自立活動の時間の指導について、また、それに伴う他の教科等の時間数の検討、さらに、児童生徒の実態に即し、3部間の傾斜を考えた重複障害学級の教育課程について検討する。 ・平成32年度から小学部における新学習指導要領の全面実施の備え、小学部・中学部・高等部の系統性を考えた指導内容を盛り込んで各教科・領域の年間指導計画を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部・中学部・高等部とつながりある教育課程を目指して各部で検討を進めている。小学部・中学部においては、平成32年度通常の学級における自立活動の時間の指導の実施に向けて、教育課程編成表1表及び2表を作成中である。 ・重複障害学級の教育課程が、より児童生徒の教育的ニーズに応えられるよう、各部で教育課程の課題や改善点の洗い出しを行っている。 ・教科・領域会において、新学習指導要領の各教科の目標及び内容の確認を行っている。小学部・中学部・高等部の系統性や連続性を考慮し、各教科の学習指導内容表を作成中である。今年度中に学習指導内容表を完成させ、それに基づいて新学習指導要領に対応した年間指導計画のモデル案を来年度に作成できるようにする。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な通学環境の整備 ・基本的生活習慣の定着 ・防災体制の充実 ・いじめの防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・S B6コースの安全管理、運行の適正化に努める。（緊急時の対応、経路・ダイヤの調整） ・自力通学生生の通学経路の把握と交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 ・挨拶の習慣、身だしなみの意識、持ち物を管理する力を高め、好ましい生活習慣の定着を図る。 ・マニュアル及び訓練により、災害時の職員の対応、役割を周知する。 ・防災物品、備蓄食糧の管理及び整備を進める。 ・職員会議でいじめ防止基本方針の共通理解を図る。学期ごとに各学年へ実態調査を行う。高等部生徒を対象にいじめに関連したアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の要望、地域からの連絡に対し、コースやバス停の位置の調整をして、安全対策、適正運行を図った。次年度に向け、より安全かつ円滑に運行できるコースの見直しを進めている。 ・通学時、自転車の交通事故が2件発生した。昨年度より事故件数が減っている。7月には一宮署に依頼し、交通安全教室を自転車通学者に対して実施。 ・繰り返しの訓練により、職員の防災対応意識が高まっている。 ・熱中症を考慮して、部活動や下校訓練を実施。今後も適宜対応が必要である。 ・防災物品や備蓄食糧の計画的な購入を進めている。 ・他校との情報を聞き、避難所開設の対応も検討。 ・年度当初の職員会議で、いじめ防止基本方針を伝え、1学期末にいじめ不登校対策委員会、いじめに関連したアンケートを実施した。現在、いじめに関する問題行動等はみられない。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実 ・卒業後の生活を見据えた地域との連携と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講話会等を開催し、保護者の進路指導に対する意識を高める。 ・他の分掌と連携し、早期から児童生徒の抱える課題を関係諸機関と情報共有し、地域の支援体制を整える。 ・職場開拓を行い、雇用予定のある企業を積極的に探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの進路講話会として、卒業生の進路先（福祉施設）から外部講師を招いて2回実施した。 ・現職研修では外部（企業）講師を招き、職員の意識向上を図った。 ・地域支援部と連携し、相談機関を交えて個別支援会議を実施し、個に応じた進路指導を実施している。 ・今後もハローワークや他校進路担当者や情報交換を行いながら職場訪問や会社見学に出向き、進路先及び後期実習先として開拓を進める。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康教育の推進 ・安全教育の推進 ・安全環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室経営の充実を図り、学校保健活動の中心的な役割を果たす。 ・訓練等を通して職員の安全意識を高め、児童生徒の健康の保持・増進を図る。 ・教育活動全体を通じた食育指導を実践し、好ましい食習慣を形成する。 ・児童生徒の健康観察を実施するとともに保護者との連携を図りながら安全・安心な学校生活が送れるようにする。 ・個別の健康観察や校内一斉換気を実施することで職員と保護者ともに意識が高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康観察や、健康情報を共有することで保健室経営をしっかりと行うことができていると思うが、これからもしっかりと情報共有を実施したい。 ・生徒指導部と協力し、消火栓等活用訓練を実施することで職員が危機感をもって訓練に取り組めるようになってきたが、細かな確認も実施しより良い訓練にしたいと思う。 ・栄養教諭や生徒給食委員会から積極的に情報発信することで、少しずつ食育に関心が高まりつつあるので、引き続き努力していきたい。 ・環境整備を通じて、安全・安心な学校づくりを心掛け、日常の職員清掃をより効果のある物にしていきたい。 ・個々の健康観察や肥満指導を通じて担保健室が担任・家庭と少しずつ連携を図れるようになってきている。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健に関する研修では、養護教諭と連携し、日本赤十字社から講師を招いた。身近なものを使用した応急処置について実技を多く交えた内容で充実した研修を行うことができた。 ・掲示や朝の打合せで知らせることで、研究授業が行われることへの周知をすることができた。 ・教材教具展においては例年の出展に加えて、各教科領域より教具の紹介コーナーを設けた。各教科で管理している教具を広く知ってもらう機会となった。 ・今後の現職研修も、職員からの意見を参考にしながら、できるだけ主体的に参加できるものを考えていく。
視聴覚	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器の有効利用を推進する。 ・図書室の円滑な運営を図り、児童生徒の利用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室や、視聴覚機器を使いやすく整備する。 ・視聴覚機器の更新を進める。 ・閲覧スペースの環境整備を行う。 ・児童生徒の指導に役立つ専門的な図書を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室の使用頻度の少ない物を一部廃棄し、視聴覚DVDの棚を整理した。今後も利用しやすくなるように整理を進めていきたい。 ・普通教室用のCDラジカセの更新を進めた。不具合が生じた物は交換していく。 ・図書用のパソコンのバーコードリーダーを整備して貸出、返却をしやすくした。 ・破損の激しい本や情報の古い本を廃棄し、新しい図書を入れることができた。 ・読書週間において新刊コーナー、おすすめ本コーナーを作り、盛り上げていきたい。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上 ・情報モラル教育の充実 ・校内情報化推進のための情報管 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的なサポートとともに、夏季休業中に情報機器活用講座を開催する。教員のセキュリティ意識を高めるために、資料提供などの啓発に努める。 ・情報モラル教育について、担任や学年、生徒指導部等との 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に、校内の情報機器活用講座を開催した。タブレット端末の利用や動画編集など、授業への活用へ成果があった。資料提供や日常的なサポートを引き続き行っていく。 ・情報モラルアンケートを中学部と高等部の保護者及び高等部生徒に実施。担任と連携して、アンケート結果を個別懇談に活用できた。今後も担任や

	理及び活用に対する先導と分掌間の連携	<ul style="list-style-type: none"> 連携を密にして進めていく。 他分掌等と連携して、タブレット端末の研究と有効利用を進め、校内に還元できるよう 研修会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年等と連携して、情報モラルに関する働きかけを進めていく。 生徒指導部と連携して、携帯電話会社による生徒向けスマホ安全教室を計画している。 タブレット端末の利用について、自立活動部等と連携して、利用事例を集約したり紹介したりして、更に利用促進を図りたい。
地域支援	<ul style="list-style-type: none"> 相談活動や地域支援活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 校内職員向けの研修等、特別支援教育に関する情報の発信に努め、自校児童生徒への支援の充実を図る。 相談支援活動を担当する職員の専門性向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に本校職員対象の校内研修を実施した。児童生徒支援に必要な内容を取り上げたことで、3日間で多くの職員の参加があった。また、地域支援部だより7月号では特別支援教育に関する本の紹介も行った。 今年度より高等部生徒教育相談を試行的に実施している。生徒のサインを捉えて早期に対応できるよう、実施方法等の体制を整えているところである。 7～8月にたんぽぽ夏季相談及び出張相談を実施した。地域支援部職員が相談係や記録係を分担して担当し、保護者や教職員等からの相談を通して相談支援の経験を積むことができた。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導支援の充実 教材教具等の周知と有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の指導内容や支援の方法について、情報を収集、紹介することで、教職員の自立活動に対する意識を高める。 個別の指導計画の目標や手だて、指導内容についてのモデル案を作成する。 自立活動の教材・教具を研究、作成し、授業等で有効活用できるように整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動に関する勉強会「じかつ☆ラボ」を計画、実施した。1学期と夏期休業中に計5回開催し、各回30名ほどの職員が参加した。感覚統合、動作法、ICTについて等知識を深めることができた。また、その内容を「じかつだより」に掲載し、全職員に配付することで情報を共有した。 自立活動掲示板「じかつコーナー」を設置し、勉強会の案内と報告、教材の紹介等を行った。 自立活動に関する教材を新たに20点ほど作成し、すべて貸し出しできるように教材室を整理した。また、教材紹介をデータ化し、活用方法を一宮東 Web から閲覧できるようにした。 今後、自立活動の時間を設定するにあたって、「流れ図」を活用した目標設定の仕方や具体的な指導内容について提案していく。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階を踏まえるとともに、長期的な視点に立って児童の成長を考える中で、日常生活で身に付けたい基本的な力の共通理解を図り、個々の実態に応じた支援の充実を図る。 安全な生活環境の整備や個々の実態に応じた支援を充実させることで、けがや事故等のない安全で健康な生活を送れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校研究での取組を生かし、視覚支援に工夫をすることでトイレの使い方や身だしなみを整えることを意識できる児童が増えてきた。今後、定着していくための手だての工夫とより多くの児童に成果が出るような系統的な指導方法を検討していく。また、挨拶等、他者との関わりに関する生活習慣の育成や、個々の目標を意識して自立活動の視点を踏まえた支援も進めていく。 窓ガラスへの飛散防止フィルムの貼付け、割れない姿見の設置等、安全を意識した生活環境整備を行なった。また、部会や学年会等で児童の体や心の健康状態への留意事項を共有することで、児童の安全な生活の支援を行った。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と感じられる授業を創り、笑顔あふれる中学部をめざす。 基本的な生活習慣を育成し、社会生活を営む上で基礎的な能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの視点から補助具を開発したり環境を整えたりして、生徒自身が課題を理解し、落ち着いて取り組めるようにする。 食事、睡眠、排せつ、挨拶、衣服の着脱、身だしなみ、ルールや約束事の意識、相手を思いやる気持ちなど、基本的な生活習慣の育成を家庭と連携を密に図り、学校生活全般を通して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な授業場面において ICT 機器や写真・イラストを積極的に使い、「分かりやすさ」に配慮した学習を展開している。更に生徒自身が主体的に授業に参加できるように工夫していく。 授業場面では、習熟度を考慮した小グループ編成や活動内容の精選などの工夫を行い、学習の定着及び活動量の増大を図っていくことが課題である。 特に日常生活の指導及び1限後半の生活単元学習の時間を有効に使い、個々の課題に積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。また、集団を意識した学校生活を送る生徒の姿が、年度当初よりも多くなっている。 中学部集会で「ありがとうチャンピオン」として、みんなのために積極的に活動した生徒を表彰したり、近隣の公園に出向き校外での販売実習を展開したりするなど、生徒が他者に認められる活動を取り入れることで、自己有用感及び自己肯定感が高まり、自信をもって笑顔で楽しく学校生活を送る姿が目立つようになっていく。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> 自立と社会参加のための力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活を見据え、自立活動の視点で生徒一人一人の適性にあった指導を行う。 学校生活の様々な行事を通して、基本的な生活習慣の確立など、社会生活を営む上で必要な力を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年から新設した教育課程での学習により、B類型で学習をしている生徒にとっては視覚教材等を使用するなど、生徒にとってより理解しやすい学習環境が整備されてきており、落ち着いて学校生活を送ることができる生徒が増えた。A類型で学習をする生徒については障害受容や自己理解の観点からも自分ができることを増やす努力をしながらも、できることとできないことを認識し、できないことについては自ら支援を求められる力を身に付けるようにする必要がある。また、引き続き学校生活や行事等において自分で考える機会を多く設定することで、自己判断、自己決定、自己選択ができる力を身に付けることができるようにしたい。 日常の学校生活や行事等を通して挨拶・返事・報告をはじめとする働く上で必要となる態度が定着しつつあるが、特定の相手や特定の場所のみでしかできない場合があるため、今後はどんな環境でも身に付けた力を発揮できるように指導する必要がある。
学校関係者評価を実施する主な項目	<ul style="list-style-type: none"> 安全で気持ちの良い学習環境の整備。 発達課題をしっかりと捉え、12年間を見据えた支援を進める。 		